

2011年11月

電力総連「ふれあいカンパ」御中

国連の難民援助活動に、継続的に大きなご支援をお寄せいただき心より感謝申し上げます。

2011年1月にいただきましたご寄付100万円は、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）がパキスタンで実施している人道援助活動に役立てられました。主な活動内容について、以下のとおりご報告申し上げます。

【2010年～2011年度の活動報告】

現在、約170万人の難民が暮らすパキスタンは、北西にアフガニスタンと国境を接し、約30年間にわたりアフガン難民最大の受入国となっています。2002年にUNHCRの支援のもと、360万人のアフガン難民が帰還を果たし、さらに2010年中旬までに9万5000人が帰還しました。長期化するアフガン難民問題の解決に向けて、パキスタン政府をはじめ、国連機関も動き出しています。UNHCRパキスタン事務所はUNDP（国連開発計画）との共同事業として、パキスタンに暮らすアフガン難民と、彼らを受け入れている地域の問題を総合的に解決するための5ヵ年計画のプロジェクトを2009年より開始しました。本プロジェクトは、今現在多数の難民を受け入れている地域、および過去に難民を受け入れたことにより社会経済的な影響を受けた地域を対象としており、保健・教育・公衆衛生、生計向上などの分野に力を入れて実施しています。



2010年、アフガン難民20万人とパキスタン人144万人に対して下記の活動が行われました。

水・衛生分野

90万人が暮らすスラム街で伝染病の流行防止など公衆衛生に関する活動を行いました。

教育分野

教員と保護者による運営委員会などが形成され、20万人を対象に教育、職業訓練の支援を実施しました。

保健分野

保健施設の改修を行い、利用数は30万人となりました。



【写真左】

難民や国内避難民の多くが、女性や子どもたちです。

【写真右】

保健施設で治療を受ける下痢に苦しむ子ども



© UNHCR/H. Caux

UNHCRは、2011年より、アフガン難民と難民を受け入れている地域に暮らすパキスタンの人々の生計向上を優先課題として支援活動を実施しています。また、2010年7月に発生した大洪水では、テントや援助物資を支給するなどの援助活動を行った他、特に弱い立場におかれている女性や子ども、高齢者の多い家庭に対して、ワンルームの住居を提供するなど、生活再建の支援を実施してきました。2011年8月には、パキスタン南部を中心に再び大雨の影響で洪水が発生したため、家を追われた人々の当面の避難生活を支えるテントや毛布などを配給し、緊急の援助活動を行っています。パキスタン政府の発表によると、この度の洪水被害者数は500万人以上、20万世帯が緊急で仮設住居を必要としています。



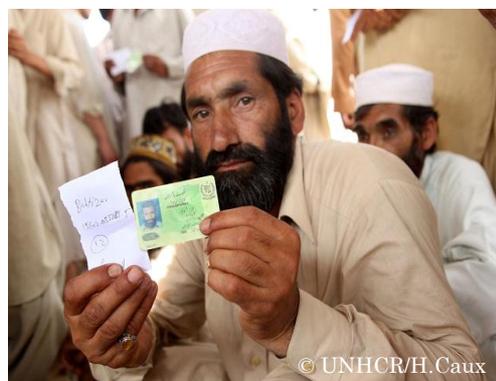
UNHCRより支給されたテントの設営



UNHCRより支給された水汲み容器を持つ子どもたち



UNHCRから支給された援助物資を持ち帰る男性



UNHCRから援助を受けるための配給カードを手にする国内避難民

皆様の温かいご支援により、多くの方々に支援を届けることができました。
ご協力に心より御礼申し上げます。